

今後の課題と対応の方向性	① 今後中央図書館において、インターネットによる個人予約対象を小学生に拡大し、クラスカードの作成を予定しています。これにより、学校図書館とさらに連携を深め、児童生徒が「本を読みたい」「学校図書館を利用したい」と思える環境づくりに努めます。 ② 中央図書館と連携した読書活動の推進や学校司書との授業づくりを更に進め、児童生徒の読書意欲の向上に努めます。
---------------------	---

〈外部の方々から頂いた意見（学校運営協力員）〉

- * 読書はとても大切である。幅広い分野の本を読めるよう蔵書を工夫してほしい。
- * 中央図書館との連携を図り、読書に親しむ環境づくりをお願いしたい。

Ⅱ 給食センター事業

学校給食については、学校給食法で定める次の7つの目標を視点とし、点検・評価を行いました。

【学校給食法で定める7つの目標】

- ① 適切な栄養の摂取による健康の保持増進を図ること。
- ② 日常生活における食事について正しい理解を深め、健全な食生活を営むことができる判断力を培い、及び望ましい食習慣を養うこと。
- ③ 学校生活を豊かにし、明るい社交性及び協同の精神を養うこと。
- ④ 食生活が自然の恩恵の上に成り立つものであることについての理解を深め、生命及び自然を尊重する精神並びに環境の保全に寄与する態度を養うこと。
- ⑤ 食生活が食に関わる人々の様々な活動に支えられていることについての理解を深め、勤労を重んずる態度を養うこと。
- ⑥ 我が国や各地域の優れた伝統的な食文化についての理解を深めること。
- ⑦ 食料の生産、流通及び消費について、正しい理解に導くこと。

項 目	1 正しい食習慣の形成，好ましい人間関係の育成，栄養管理と健康増進，食の在り方について教育の一環として給食を実施する。
目標・取組概要	① 食と健康，正しい食習慣などについて，給食を通して学べる工夫をします。 ② 給食センターの見学会や試食会等で，保護者に学校給食についての理解を深めてもらうことに努めます。 ③ 安全安心で安定した学校給食を提供します。また，各学校の給食主任による献立会議を開催し，児童生徒等からの声を反映した献立づくりを心掛け，食育につながる給食の提供に努めます。 ④ 食物アレルギーを持つ児童生徒の対応については，給食センター，学校及び保護者で情報の共有を図ります。
自己評価	① 食材の栄養，献立の内容，郷土食などを紹介した「栄養指導資料」を各学校に配布（年11回）や，献立表や食と健康についてなどを説明した「給食だより」を市ホームページに掲載（年11回）することを継続して取り組むことができました。

箸の持ち方や食事のマナーについては、栄養教諭、学級担任等が連携し、授業や給食時間に指導を行いました。

なお、新型コロナウイルス感染拡大防止対策により、令和2年3月が臨時休業となり、給食も停止となったことから、停止期間中は再開に向けた準備を行いました。

<給食の実施状況>

給食提供予定日数 197日

給食停止日数 15日

※ 令和2年2月現在 1日当たり6,570食

(平成31年3月現在 1日当たり6,578食)

- ② 保護者見学会などを通して、給食の意義や給食センターの調理の状況を説明するなどして、給食についての理解と現状を説明することができました。

給食費の徴収については、学校と給食センターが連携して未納削減に取り組んでいます。

<保護者見学会、試食会実績>

見学会 135名(前年 30名)

試食会 630名(前年 883名)

<給食費収納率(現年度分)>

令和元年度 99.88%(13校中7校100%)

※ 平成30年度 99.91%

- ③ 献立と本日の給食の写真を市ホームページに掲載し、給食に関する情報提供に努めました。献立は各学校の給食主任による献立会議を開催して各校の意見を取り入れたり、地元産食材の利用や他県の郷土料理の紹介などにも取り組みました。

また、市内で野菜を生産している方を学校へ招へいし、旬な野菜の時期などをお話いただき、児童たちと一緒に給食を食べながら、交流する機会を設けました。

<守谷生まれの献立>



守谷生まれの食品をたくさん使った献立です。
サケの味噌ヨーグルト焼き、肉豆腐、守谷
生まれの味噌汁、ご飯、鮎ヨーグルト

<市内の生産者と児童との交流>



松ヶ丘小学校の児童たちに野菜が採れる時期など
について説明している様子

放射性物質検査については、調理した献立(2献立)を検査し、検査結果を毎日市ホームページに掲載して、給食の安全性につい

	て情報提供を図ることができました。 ④ 食物アレルギーを有する児童生徒に対しては、保護者、学校及び給食センターが情報を共有し、食物アレルギーによる事故防止に努めました。（事故発生なし） 【取組内容】 - 食物アレルギーを有する児童生徒の保護者に献立明細等を配布し、保護者から給食の喫食を判断するための「給食確認票」の提出を受け、情報の共有を図りました。 2献立制を活用して、希望により他の献立と変更するなどし、できるだけ給食を食べられるように努めました。
今後の課題と対応の方向性	① 栄養教諭による指導の機会を充実させ、法律で定める学校給食の目標が達成されるよう引き続き取り組んでいきます。 ② 給食費の改定については、新型コロナウイルス感染拡大に伴う社会情勢等も踏まえて検討をします。 ③ 食数の増加に対応するため、新給食センターを令和4年4月から稼働できるよう、建替え工事を進めます。 ④ 食物アレルギーを有する児童生徒に対しては、引き続き給食センター、学校、保護者の3者が情報共有しながら適切に対応していきます。

項 目	2 学校給食を安全・安定して供給するため、徹底した衛生管理を行う。
目標・取組概要	① 安心・安全で安定した学校給食の提供に努めます。 a 調理場内のドライ運用（*11）や、手洗い、調理用具の消毒を徹底し、食中毒の防止に努めます。 b 自己健康及び自己衛生管理表、衛生管理チェック票、作業工程表の確認を毎日行い、調理業務従事者に対する衛生管理の徹底を図ります。 c 施設内の害虫防除を行うとともに、上・下水道水質検査、食品衛生検査等を行い、食中毒防止に努めます。 ② 設備を定期的に保守点検し、不具合箇所を早めに発見して対処していくことで、安定した給食の提供を図ります。
自己評価	① 衛生管理マニュアルを徹底するとともに、施設の定期的な点検（水質検査・食品衛生検査等）を行い、食中毒等の事故はありませんでした。 ② 調理機器等のメンテナンスを定期的に行っているため、設備の老朽化等による不具合が発生した場合においても、停止するような事故等はなく、給食を安定して供給することができました。
今後の課題と対応の方向性	食数の増加に対応するため、新給食センターの稼働に併せて現在の2献立から3献立とするためのシステムを導入することや、学校施設の受け入れ体制を準備しておく必要があります。

〈外部の方々から頂いた意見〉（保護者〔試食会より〕）

- * バランスがとれていて、美味しかったです。
- * くせの強いセロリも細かくされていて、食べやすかったです。
- * 薄味でもおいしいのだと気づき、家のご飯に参考にしようと思いました。
- * たくさんの野菜の種類に驚きと感謝しかありません。
- * スープの味がもう少し濃かったらと思いました。
- * 大人でもお腹いっぱいになりました。
- * 汁の味付けをもう少し濃くして欲しい。ソフト麺と味がからまない。
- * 美味しくいただきました。パンもやわらかく食べやすく、スープの濃さもちょうど良かったです。

＜社会教育（生涯学習）分野の点検・評価＞

社会教育（生涯学習）分野については、大きく生涯学習事業と図書館事業に分けて点検・評価しました。

I 生涯学習事業

1 自主的なサークル活動の支援と学習機会・場の提供

市民が生涯学習に自発的に参加できるよう、学習できる機会・場を提供します。

項 目	1 多様な学習機会の提供に努めます。										
目標・取組 概要	公民館講座を中心に、多様な学習機会の提供、学習意欲の喚起を図り、市民の学習活動につながるきっかけづくりを進めます。 ※ 中央公民館、郷州公民館、高野公民館、北守谷公民館の運営は、平成 24 年度から指定管理者制度を導入しています。 ① 公民館事業における学習機会、交流の場の提供 ② 人権啓発・人権教育の推進										
自己評価	① 公民館講座、公民館まつりは、公民館運営協力員会議、講座検討会議や公民館まつり実行委員会など、地域の方々に参画いただくことで、市民のニーズに応じた講座等の提供に努めました。 【参考】令和元年度に実施した講座 <table><tr><td></td><td>中央</td><td>郷州</td><td>高野</td><td>北守谷</td></tr><tr><td>講座数 (回数)</td><td>2 (2)</td><td>8 (22)</td><td>7 (18)</td><td>10 (23)</td></tr></table> ※ 公民館講座に満足している参加者の割合 令和元年度 95.9%（平成 30 年度 96.1%） ② 「人権啓発研修会」を通して、社会教育委員や社会教育関係団体等に、人権問題に対する意識向上を図りました。		中央	郷州	高野	北守谷	講座数 (回数)	2 (2)	8 (22)	7 (18)	10 (23)
	中央	郷州	高野	北守谷							
講座数 (回数)	2 (2)	8 (22)	7 (18)	10 (23)							
今後の課題と対応の方向性	公民館講座に参加した市民の満足度は高いものの、市民アンケートによると、「日ごろから趣味や習い事に取り組んでいる市民の割合」が、市が掲げる目標値（45%）に満たない状況です。（令和元年度 36.8% [平成 30 年度 40.1%]）また、子育て世代の公民館利用が少ないことも課題の一つです。										